



氷上で独り静かにたたずみ、白い息を吐きながら釣り糸を垂らす男性。糸の先には、5匹のワカサギが集まっています。水上は丹念に色を塗り重ねた筆触で、男性の上着は点描風に鮮やかな色彩で描かれています。

南城一夫
『釣り人』昭和51年
油彩・カンバス(45・5センチ×33・5センチ)

未来への贈りもの 本市収蔵作品

昭和12年に帰国してからは、ほとんど前橋を離れることなく制作を続けます。前橋中の旧友・横堀角次郎に勧められた春陽会展と県美術展を主な発表の場としていました。

独り黙々とワカサギ釣りに集中する姿は、市内の馬場川沿いの借家で、朝から晩まで画室にこもって、無心にカンバスに向かう作者自身を思わせ、まるで自画像のようにも見えます。

本作品は、11月23日(水)まで開催する収蔵美術展「コレクション+ つながる、つたえる」に出品。広瀬川美術館(千代田町三丁目)で展示しています。

本市では、地域ゆかりの作家の作品約850点を所蔵しています。これらの作品は、未来へ残し、伝えていく贈りものです。

また現在、「アートでつながる市民の創造力」をテーマに美術館構想を進めています。来年度中に前橋プラザ元氣21別館(旧ウォーク館)に開館する前橋市美術館(仮称)では、これらの作品を定期的に展示します。

問い合わせは 文化国際課 ☎090-881-0020



前橋市旧町名めぐりうたを作曲

小暮哲朗さん 62歳
昭和町一丁目

前橋市旧町名めぐりうた(抜粋)

わたしゃあなたに堀川町
毎晩通って曲輪町
三度の食事も桑町で
会えば話が細ヶ沢

まちのにぎわいを歌から広めたい

堀川町や曲輪町、桑町など、本市の旧町名を語り合わせて歌詞に盛り込んだ「前橋市旧町名めぐりうた」に、新たな曲を付けてよみがえらせた小暮さん。

「知人から作曲を依頼されたのがこの歌との出会い。以前から、まちの活性化に一役買いたいと思っていたので、まちを明るくできるようなご当地ソングになればと思い、喜んで引き受けました」

誰もが親しめる歌になるように曲を工夫。七五調のリズムに乗って、つい鼻歌で歌いたくなるものに仕上がっている。

「昔の町名を知っている人には古き良き文化や歴史を懐かしみ、知らない人には町名の由来などに興味を持ってもらいたいです。実は踊りの振り付けも考えているところなので、いずれはだんべえ踊りのように前橋市の代表的な踊りとして、

子どもからお年寄りまで、世代を超えて親しんでもらいたいですね」

18歳からバンド活動を始め、作詞作曲を手掛けてきた小暮さん。21歳でプロデューサーし、現在もコンサートなどで全国各地を飛び回っている。この精力的な活動を支えているのは、歌にかける情熱だという。

「歌は私の生きがい。歌を通して、聞いてくれる人に元氣と勇気を届けることが私のモットーです。前橋市旧町名めぐりうたもいろいろなる人の元氣に、そして、まちのにぎわいにつながってほしいですね。これからもそんな歌を作り続けていきます」

今後も積極的に普及活動が続けていきたいという小暮さん。いずれこの歌が至るところで流れることを期待したい。

クローズアップ



42年分の感謝を込めて

11月3日、児童文化センターで「ありがとう！児童文化センター」を開催しました。来年リニューアルする児童文化センター。取り壊し予定の建物の前で、手作りのキャンドルに火をともし、42年分の感謝の気持ちを込めて歌や楽器の演奏を行いました。



郷土ゆかりの美術に触れる

11月23日(水)まで、ミニギャラリー千代田や広瀬川美術館など中心市街地の4会場で、収蔵美術展を開催しています。「つながる、つたえる」をテーマに、本市収蔵作品のほか、本市にゆかりのある若手作家の作品を展示。ぜひお出掛けください。



日本語の発表で文化交流

11月6日、群馬会館で外国人による日本語発表会を開催しました。発表者は、自分の国の文化や日本に来て驚いたこと、東日本大震災での経験などさまざまなテーマで熱心にスピーチ。豊かな表現力と工夫に富んだ発表に、来場者から大きな拍手が送られました。



前橋の秋の味を堪能して

11月6日、中心市街地で秋穫楽市を開催。本市産の安全安心で新鮮な農畜産物や、歴史と風土に育まれた名産品などが販売され、多くの人でにぎわいました。また、牛肉や牛乳、天ぷらの無料配布なども行われ、訪れた人はおいしい前橋の味を堪能しました。